

第8章 その他の分野

8.1. 分野の概要

UNFCCC インベントリ報告ガイドライン（決定 24/CP.19）の paragraph 38 において、各締約国は、国家インベントリ報告書（NIR）に IPCC ガイドラインに含まれていない各国独自の排出・吸収源についての説明を記すべきとされている。この規定に従い、その他の分野（CRF セクター6）の排出状況の概要を以下に示す。

8.2. CO₂、CH₄、N₂O、HFCs、PFCs、SF₆、NF₃

CO₂、CH₄、N₂O、HFCs、PFCs、SF₆、NF₃のうち、その他の分野で報告している排出量及び吸収量はない。

8.3. NO_x、CO、NMVOC、SO_x

前駆物質（NO_x、CO、NMVOC）及び硫黄酸化物（SO_x）のうち、喫煙起源の CO 排出をその他の分野で報告している。（別添 3 参照）

第9章 二酸化炭素と一酸化二窒素の間接排出

9.1. 分野の概要

a) カテゴリーの説明

間接 CO₂ については、UNFCCC 報告ガイドラインの paragraph 29 に従い、報告することも選択できることになり、また我が国の実態を踏まえた算定方法が確立されたことから、我が国は、CH₄、CO、NMVOCs の大気中での酸化による間接 CO₂ の排出を報告することを選択する。ただし、農業、LULUCF 分野以外の排出源からの間接 N₂O の排出について報告することを選択しない。

表 9-1 に示した分野・カテゴリーからの蒸発起源 NMVOC 及び CH₄ からの間接 CO₂ 排出量を計上する。蒸発起源 NMVOC 及び CH₄ 以外に、燃料の燃焼起源の CH₄、CO 及び NMVOC や、自動車からの燃料蒸発ガス¹、石油由来廃棄物の燃焼起源の CH₄、CO 及び NMVOC も大気中での酸化が起きるが、これらの排出に伴う間接 CO₂ は、燃料の燃焼 (1.A.) からの CO₂ 排出量、廃棄物の焼却と野焼き (5.C.) からの CO₂ 排出量にすでに含まれている²ため、計上対象外とする。また、農業分野や、LULUCF 分野、廃棄物分野、その他の分野におけるバイオマス起源の CH₄、CO、NMVOC に由来する間接 CO₂ は、2006 年 IPCC ガイドラインに従い、カーボンニュートラルの観点から計上対象外とする。

表 9-1 間接 CO₂ の分野・カテゴリー

分野・カテゴリー	CH ₄ 由来	CO 由来	NMVOC 由来
1.B 燃料からの漏出	○	NE、NO	○
2.工業プロセス及び製品の使用	○	NE	○

b) 方法論

■ 算定方法

蒸発起源の NMVOC 及び CH₄ が大気中で酸化されることによる CO₂ を、2006 年 IPCC ガイドラインに記載されている下記換算式に基づき、算定する。

【間接 CO₂ 排出量算定式】

$$E_{CO_2} = E_{CH_4} \times \frac{44}{16}$$

$$E_{CO_2} = E_{NMVOC} \times C \times \frac{44}{12}$$

E_{CO_2} : 間接 CO₂ 排出量 [kt]

E_{CH_4} : CH₄ 排出量 [kt]

E_{NMVOC} : NMVOC 排出量 [kt]

C : NMVOC 中の平均炭素含有率

¹ 「1.A.3. 運輸」にて計上。

² 「1.A. 燃料の燃焼」「5.C. 廃棄物の焼却と野焼き」における化石燃料の燃焼においては、化石燃料に含まれる炭素の全量が CO₂ になると想定している。

■ 各種パラメータ

「NMVOC 中の平均炭素含有率」については、各排出源から排出される NMVOC 各物質の炭素含有率を各物質の構成比率を用いて加重平均して算出した値を使用する。各物質の炭素含有率は分子式より設定し、各排出源に含まれる物質及びその構成比は、VOC 排出インベントリ等、各種資料より推定する。なお、2014 年度までは各発生源別に平均炭素含有率を設定するが、数値の経年変動が小さいことより 2015 年度以降は 2014 年度における全平均の炭素含有率 0.73 をすべての発生源に使用する。ただし、塗膜剥離剤等の 2018 年以降の提出から報告を開始した排出源については、全期間について 0.73 を用いる。

■ 活動量

燃料からの漏出 (1.B.) 分野からの CH₄ 排出量は 3 章を参照。化学産業 (2.B.) 及び金属製造 (2.C.) からの CH₄ 排出量は 4 章を参照。各分野からの CO、NMVOC については別添 3 を参照。

c) 不確実性と時系列の一貫性

■ 不確実性

別添 2 参照。

■ 時系列の一貫性

「NMVOC 中の平均炭素含有率」については、それぞれ一貫した統計から各物質の構成比率を算出している。活動量については、関連の章を参照。

d) QA/QC と検証

2006 年 IPCC ガイドラインに従った方法で、一般的なインベントリ QC 手続きを実施している。一般的なインベントリ QC には、排出・吸収量の算定に用いている活動量、排出・吸収係数等パラメータのチェック、及び出典文献の保存が含まれる。QA/QC 活動については、第 1 章に記述している。

e) 再計算

再計算の影響の程度については 10 章参照。

f) 今後の改善計画及び課題

特になし。

参考文献

1. IPCC 「温室効果ガスインベントリのための 2006 年 IPCC ガイドライン」(2006)
2. UNFCCC 「改訂 UNFCCC インベントリ報告ガイドライン」(決定 24/CP.19 附属書 I) (FCCC/CP/2013/10/Add.3) (2014)
3. 環境省 「揮発性有機化合物 (VOC) 排出インベントリ」

第10章 再計算及び改善点

10.1. 再計算に関する解説と正当性

ここでは、2022年提出インベントリにおける排出・吸収量の算定に関する改善点について解説を行う。

UNFCCC インベントリ報告ガイドライン及び2006年IPCCガイドラインでは、1) 新しい算定手法の適用、2) 新規排出・吸収区分の追加、3) データの改訂が行われた場合、基準年以降全年にわたり排出量・吸収量を再計算することを附属書I国に求めている。以下に、前年提出インベントリからの主な変更点について示す。

10.1.1. 全般的事項

我が国固有の事情として一般に、インベントリ作成時点での最新年活動量データについては、会計年度値の公表等の理由により、翌年に見直されることが多い。本年提出インベントリでは、多くの排出区分において2019年度の活動量データが見直されたことにより、当該年における排出量が再計算された。

10.1.2. 各分野における再計算

我が国固有の事情・理由による、分野（エネルギー、工業プロセス及び製品の使用、農業、土地利用、土地利用変化及び林業、及び廃棄物）の再計算に関する情報は、第3章から第7章の中の「再計算」のセクションで個別に記述されている。

10.2. 排出量に対する影響

「10.1. 再計算に関する解説と正当性」で示した再計算がインベントリ全体に及ぼす変化を以下に示す。

10.2.1. 温室効果ガスインベントリ

本年度提出インベントリを昨年度提出インベントリと比較すると、気候変動枠組条約の下での基準年（1990年）の総排出量（LULUCF分野を除く、間接CO₂を含む）については0.07%の増加、2019年度の総排出量については0.06%の増加となった（表10-1）。

なお、各分野のカテゴリー毎、ガス毎の昨年度提出インベントリとの比較は、表10-2～表10-6の通りである。再計算の理由の詳細は各カテゴリーの記述を参照のこと。

表 10-1 2021年提出インベントリと2022年提出インベントリの排出・吸収量の比較

Table with columns for years (1990-2019) and categories (CO2, CH4, N2O, HFCs, PFCs, SF6, NF3, 間接CO2, 合計). Rows include 'JNGI 2021', 'JNGI 2022', and '差異' for each category.

表 10-3 2021年提出インベントリと2022年提出インベントリの排出・吸収量の比較（工業プロセス及び製品の使用分野）(2/2)

2. 工業プロセス及び製品の使用 (2/2)	[百万tCO ₂ 換算]																														
	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
E. 電子産業																															
HFCs	JNGI 2021	0.00	NO	0.02	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	JNGI 2022	0.00	NO	0.02	0.1	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	
	差異	0.00%	NA	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
PFCS	JNGI 2021	1.5	1.7	1.7	2.5	3.1	4.0	4.7	6.0	6.1	6.5	7.0	5.3	5.4	5.3	5.6	4.7	5.1	4.5	3.4	2.1	2.3	1.9	1.7	1.6	1.7	1.7	1.8	1.9	1.8	
	JNGI 2022	1.5	1.7	1.7	2.5	3.1	4.0	4.7	6.0	6.1	6.5	7.0	5.3	5.4	5.3	5.6	4.7	5.1	4.5	3.4	2.1	2.3	1.9	1.7	1.6	1.7	1.7	1.8	1.9	1.8	
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
SF ₆	JNGI 2021	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	1.1	1.2	1.4	1.5	1.3	1.4	1.4	1.4	1.3	1.0	0.8	0.6	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	
	JNGI 2022	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8	1.1	1.2	1.4	1.5	1.3	1.4	1.4	1.4	1.3	1.0	0.8	0.6	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
NF ₃	JNGI 2021	0.03	0.03	0.03	0.04	0.07	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	JNGI 2022	0.03	0.03	0.03	0.04	0.07	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2	0.3	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
F. オゾン層破壊物質の代替としての製品の使用																															
HFCs	JNGI 2021	0.0	NO	0.1	0.9	1.9	2.9	4.1	5.1	5.7	6.1	6.6	7.0	7.9	9.1	10.3	11.5	13.2	15.8	18.2	20.5	23.0	25.8	29.1	31.9	35.6	39.1	42.3	44.7	46.8	49.5
	JNGI 2022	0.0	NO	0.1	0.9	1.9	2.9	4.1	5.1	5.7	6.1	6.6	7.0	7.9	9.1	10.3	11.5	13.2	15.8	18.2	20.5	23.0	25.8	29.1	31.9	35.6	39.1	42.3	44.7	46.8	49.5
	差異	0.00%	NA	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.04%
PFCS	JNGI 2021	4.5	5.3	5.4	7.8	9.6	12.6	12.2	12.3	8.8	5.0	3.2	3.2	2.6	2.3	2.5	2.8	2.8	2.4	1.6	1.4	1.7	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.6	1.6
	JNGI 2022	4.5	5.3	5.4	7.8	9.6	12.6	12.2	12.3	8.8	5.0	3.2	3.2	2.6	2.3	2.5	2.8	2.8	2.4	1.6	1.4	1.7	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.6
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
G. その他製品の製造及び使用																															
N ₂ O	JNGI 2021	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	
	JNGI 2022	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
CO ₂	JNGI 2021	0.06	0.07	0.07	0.06	0.07	0.07	0.08	0.09	0.09	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.09	0.09	0.09	0.09	0.07	0.07	0.07	0.08	0.09	0.10	0.09	0.09	0.10	0.11	0.10	
	JNGI 2022	0.06	0.07	0.07	0.06	0.07	0.07	0.08	0.09	0.09	0.09	0.09	0.08	0.08	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.07	0.07	0.07	0.08	0.09	0.10	0.09	0.09	0.10	0.11	0.10	
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
H. その他																															
GHG	JNGI 2021	110.9	115.4	117.3	119.4	127.0	137.2	139.3	136.4	125.6	111.0	109.0	98.0	91.1	89.7	86.3	87.4	89.3	84.9	77.5	80.8	82.7	85.2	89.5	92.1	93.3	96.3	99.1	100.1	101.5	
	JNGI 2022	111.0	115.5	117.3	119.5	127.0	137.2	139.4	136.5	125.7	111.1	109.1	98.1	91.2	89.8	86.4	87.6	89.5	85.1	77.7	81.0	82.9	85.4	89.6	92.3	93.5	96.5	99.2	100.2	101.5	
	差異	0.02%	0.03%	0.03%	0.03%	0.04%	0.04%	0.05%	0.05%	0.06%	0.08%	0.09%	0.12%	0.15%	0.17%	0.19%	0.20%	0.22%	0.24%	0.27%	0.30%	0.30%	0.26%	0.25%	0.26%	0.22%	0.20%	0.17%	0.17%	-0.02%	

※間接CO₂を含みます。

表 10-4 2021年提出インベントリと2022年提出インベントリの排出・吸収量の比較（農業分野）

区分コード	ガス	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019		
A. 消化管内発酵	CH ₄	9.4	9.6	9.7	9.6	9.4	9.3	9.2	9.2	9.2	9.1	9.1	9.0	9.0	8.9	8.7	8.7	8.6	8.7	8.6	8.5	8.2	8.2	8.0	7.7	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	7.6	
	差異	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
B. 家畜排せつ物のCH ₄ 管理	JNGI 2021	3.1	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	3.1	3.0	2.9	2.9	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	
	差異	6.81%	6.57%	6.45%	6.50%	6.46%	6.26%	6.19%	6.31%	6.36%	6.36%	6.37%	5.90%	5.40%	4.97%	4.55%	4.12%	3.74%	3.35%	2.95%	2.51%	2.17%	2.28%	2.43%	2.53%	2.55%	2.57%	2.58%	2.71%	2.85%	2.86%	2.03%	
C. 稲作	JNGI 2021	12.1	11.8	12.6	12.7	13.5	13.1	12.6	12.9	12.0	12.1	12.2	11.7	11.9	11.6	11.9	11.6	11.9	11.9	11.8	11.9	12.2	12.1	11.9	12.2	11.6	11.5	12.1	12.0	12.1	12.0	11.9	
	差異	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.20%	
D. 農用地の土壌 N ₂ O	JNGI 2021	7.1	7.0	6.9	7.0	6.9	6.6	6.5	6.4	6.3	6.3	6.3	6.3	6.1	6.1	6.1	5.9	5.9	6.2	5.4	5.2	5.5	5.4	5.4	5.4	5.5	5.4	5.4	5.4	5.5	5.6	5.6	
	差異	6.65%	6.43%	6.43%	6.62%	6.63%	6.62%	6.47%	6.53%	6.65%	6.65%	6.76%	6.94%	7.08%	7.12%	7.36%	7.43%	7.73%	8.19%	8.13%	8.60%	9.02%	9.35%	9.18%	9.10%	9.06%	8.97%	9.11%	9.03%	9.03%	9.03%	9.03%	
E. 野外で農作物のCH ₄ 残留物を燃くこと	JNGI 2021	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.06	0.06	
	差異	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
F. 石灰施用	JNGI 2021	0.6	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2
	差異	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.15%	0.15%
H. 尿素肥料	JNGI 2021	0.06	0.02	0.02	0.04	0.05	0.06	0.06	0.06	0.07	0.08	0.08	0.11	0.11	0.11	0.12	0.14	0.18	0.18	0.15	0.18	0.13	0.12	0.16	0.17	0.15	0.20	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19	0.19
	差異	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3. 合計	JNGI 2021	36.7	36.4	37.2	37.1	37.3	36.4	35.7	34.6	35.7	34.6	34.6	34.0	34.2	33.7	33.6	34.0	34.0	34.4	34.8	34.4	33.7	33.0	33.2	31.9	32.1	31.8	31.5	31.7	31.6	31.7	31.7	
	差異	2.04%	1.95%	1.88%	1.92%	1.87%	1.80%	1.74%	1.73%	1.82%	1.82%	1.88%	1.89%	1.85%	1.78%	1.81%	1.78%	1.85%	1.82%	1.98%	1.80%	2.22%	2.40%	2.37%	2.21%	2.15%	2.18%	2.19%	2.18%	2.00%	1.64%	1.24%	

表 10-6 2021年提出インベントリと2022年提出インベントリの排出・吸収量の比較（廃棄物分野）

		1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019			
5. 廃棄物		[百万t-CO ₂ 換算]																																
A. 固形廃棄物の処分																																		
CH ₄	JNGI 2021	9.6	9.5	9.4	9.4	9.3	9.0	8.8	8.5	8.2	7.9	7.6	7.3	7.0	6.8	6.4	6.1	5.8	5.5	5.2	4.9	4.6	4.3	4.1	3.9	3.7	3.5	3.3	3.1	2.9	2.8			
	JNGI 2022	9.5	9.4	9.4	9.3	9.2	8.9	8.7	8.4	8.1	7.8	7.5	7.3	7.0	6.7	6.4	6.1	5.8	5.5	5.1	4.8	4.5	4.3	4.1	3.9	3.6	3.4	3.2	3.1	2.9	2.8			
	差異	-0.99%	-0.98%	-1.00%	-0.99%	-0.98%	-0.96%	-0.93%	-0.89%	-0.88%	-0.88%	-0.84%	-0.84%	-0.84%	-0.84%	-0.83%	-0.82%	-0.82%	-0.83%	-0.84%	-0.84%	-0.82%	-0.82%	-0.80%	-0.78%	-0.76%	-0.72%	-0.72%	-0.69%	-0.66%	-0.66%			
B. 固形廃棄物の生物処理																																		
CH ₄	JNGI 2021	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.07	0.08	0.08	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.09	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.09	0.09			
	JNGI 2022	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.07	0.08	0.08	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.09	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.09	0.09			
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%		
C. 廃棄物の焼却と野焼き																																		
CH ₄	JNGI 2021	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01		
	JNGI 2022	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01		
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%		
D. 排水の処理と放出																																		
CH ₄	JNGI 2021	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.7	1.7	1.6	1.6			
	JNGI 2022	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.1	2.1	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.7	1.7	1.6	1.6			
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%		
E. その他																																		
CO ₂	JNGI 2021	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6			
	JNGI 2022	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6			
	差異	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	-0.09%	0.00%		
5. 合計																																		
GHG	JNGI 2021	29.6	29.5	30.7	30.3	32.8	33.0	33.2	33.6	33.1	32.6	32.3	30.7	29.6	29.3	28.5	27.8	26.5	26.2	26.7	25.7	25.6	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5		
	JNGI 2022	29.6	29.5	30.7	30.3	32.8	33.0	33.2	33.6	33.1	32.6	32.3	30.7	29.6	29.3	28.5	27.7	26.5	26.1	26.7	25.7	25.6	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5	25.5		
	差異	-0.09%	-0.18%	-0.19%	-0.13%	0.00%	0.05%	-0.04%	0.00%	0.19%	0.12%	0.09%	0.10%	0.10%	-0.04%	-0.04%	-0.03%	-0.01%	-0.12%	0.04%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%		

10.2.2. KP-LULUCF インベントリ

本年度提出インベントリを昨年度提出インベントリと比較すると、2019年度のKP-LULUCF活動に伴う排出・吸収量については、1.88%の吸収量増加となった（表10-7）。

表 10-7 2021年提出インベントリと2022年提出インベントリの
KP-LULUCF活動に伴う排出・吸収量の比較

KP-LULUCF活動		[百万t-CO ₂ 換算]								
活動	ガス	1990	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	
新規植林、再植林	CO ₂	JNGI 2021	-	-1.5	-1.6	-1.6	-1.6	-1.5	-1.4	-1.4
		JNGI 2022	-	-1.5	-1.5	-1.5	-1.5	-1.5	-1.4	-1.3
		差異	-	-4.62%	-4.58%	-4.58%	-4.58%	-4.55%	-4.57%	-4.50%
	CH ₄	JNGI 2021	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		JNGI 2022	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		差異	-	-4.58%	-4.54%	-4.54%	-4.53%	-4.54%	-4.56%	-4.51%
	N ₂ O	JNGI 2021	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		JNGI 2022	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		差異	-	-4.58%	-4.54%	-4.54%	-4.53%	-4.54%	-4.56%	-4.51%
森林減少	CO ₂	JNGI 2021	-	2.0	2.0	2.3	2.3	1.8	1.8	2.0
		JNGI 2022	-	2.0	2.0	2.3	2.3	1.8	1.8	1.7
		差異	-	-1.23%	-1.65%	-0.69%	-0.70%	2.25%	2.26%	-16.48%
	CH ₄	JNGI 2021	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		JNGI 2022	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		差異	-	-1.77%	-1.77%	-1.75%	-1.72%	-1.62%	-1.53%	-1.80%
	N ₂ O	JNGI 2021	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		JNGI 2022	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		差異	-	36.83%	56.71%	36.69%	45.92%	21.58%	27.21%	18.88%
森林経営	CO ₂	JNGI 2021	-	-51.2	-51.6	-49.3	-46.7	-46.4	-45.3	-41.7
		JNGI 2022	-	-51.3	-51.6	-49.4	-46.7	-46.5	-45.3	-41.4
		差異	-	0.06%	0.04%	0.08%	0.08%	0.13%	0.00%	-0.81%
	CH ₄	JNGI 2021	-	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00
		JNGI 2022	-	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00
		差異	-	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%	0.03%
	N ₂ O	JNGI 2021	-	0.09	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
		JNGI 2022	-	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.11	0.11
		差異	-	3.45%	3.39%	3.41%	3.40%	3.34%	3.37%	3.38%
農地管理	CO ₂	JNGI 2021	7.5	5.4	6.2	5.7	5.5	4.7	4.1	5.2
		JNGI 2022	7.5	5.4	6.2	5.7	5.5	4.7	4.1	4.7
		差異	0.00%	-0.04%	0.02%	0.04%	-0.03%	-0.05%	-0.24%	-8.94%
	CH ₄	JNGI 2021	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
		JNGI 2022	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
		差異	0.00%	0.01%	0.01%	0.01%	0.00%	-0.01%	-0.02%	-0.09%
	N ₂ O	JNGI 2021	0.04	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
		JNGI 2022	0.04	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
		差異	7.95%	5.60%	7.63%	10.47%	17.43%	6.58%	6.26%	7.16%
牧草地管理	CO ₂	JNGI 2021	0.4	1.0	1.6	1.3	1.0	0.8	0.6	1.0
		JNGI 2022	0.4	1.0	1.6	1.3	1.0	0.8	0.6	0.7
		差異	0.02%	0.00%	0.04%	0.06%	0.07%	0.07%	0.05%	-27.76%
	CH ₄	JNGI 2021	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		JNGI 2022	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		差異	0.00%	-0.05%	-0.09%	-0.13%	-0.23%	-0.19%	-0.04%	-0.11%
	N ₂ O	JNGI 2021	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		JNGI 2022	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		差異	-7.27%	-10.05%	-8.41%	-7.74%	-7.05%	-7.05%	-7.05%	-7.05%
植生回復	JNGI 2021	-0.1	-1.2	-1.2	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	
	JNGI 2022	-0.1	-1.2	-1.2	-1.3	-1.3	-1.3	-1.3	-1.4	
	差異	-0.08%	0.11%	0.12%	0.12%	0.12%	0.11%	0.09%	0.18%	
合計	JNGI 2021	7.9	-45.4	-44.4	-42.7	-40.6	-41.8	-41.5	-36.1	
	JNGI 2022	7.9	-45.4	-44.4	-42.7	-40.6	-41.7	-41.4	-36.7	
	差異	0.04%	-0.04%	-0.05%	-0.06%	-0.05%	-0.12%	-0.24%	1.88%	

10.3. 排出量の推移に対する影響（時系列の一貫性を含む）

「10.1. 再計算に関する解説と正当性」で示した再計算が温室効果ガス排出量の推移に及ぼす変化を表 10-8 に示す。2021 年報告値と 2022 年報告値の比較は 2019 年度における 1990 年度比を用いている。

10.3.1. 温室効果ガスインベントリ

2022 年提出インベントリにおける 2019 年度と 1990 年度の総排出量（LULUCF 分野を除く、間接 CO₂ 含む）の差異は昨年報告値と比べて約 20 万トン（CO₂ 換算）減少となり、昨年報告値から 0.01 パーセントポイントの減少となった。

表 10-8 2021 年提出インベントリと 2022 年提出インベントリにおける 2019 年度と 1990 年度の総排出量（LULUCF 分野を除く、間接 CO₂ 含む）の差異の比較

	排出量（2019）－ 排出量（1990） [百万t-CO ₂ 換算]			排出量（2019）／排出量（1990）－ 1 [%]		
	JNGI 2021	JNGI 2022	差異	JNGI 2021	JNGI 2022	差異
CO ₂	-52.1	-52.1	0.0	-4.5%	-4.5%	0.00%
CH ₄	-15.4	-15.6	-0.2	-35.2%	-35.4%	-0.21%
N ₂ O	-12.0	-12.1	-0.1	-37.8%	-37.4%	0.39%
HFCs	33.8	33.8	0.0	212.0%	212.1%	0.11%
PFCs	-3.1	-3.1	0.0	-47.7%	-47.7%	0.00%
SF ₆	-10.8	-10.8	0.0	-84.4%	-84.4%	0.00%
NF ₃	0.2	0.2	0.0	701.8%	701.8%	0.00%
間接 CO ₂	-3.5	-3.5	0.0	-62.8%	-62.8%	-0.02%
合計	-63.0	-63.2	-0.2	-4.94%	-4.96%	-0.01%

10.4. インベントリ審査への対応を含めた再計算とインベントリの改善計画

10.4.1. インベントリ提出以降の改善点

2021 年インベントリ提出以降に改善を行った主要な点を以下に列記する。

10.4.1.1. 排出・吸収量の算定方法

変更のあった算定方法は下表（表 10-9）のとおりである。詳細は各カテゴリーの当該記述を参照のこと。

10.4.1.1.a. 温室効果ガスインベントリ

表 10-9 算定方法の変更内容

分野・カテゴリー	算定方法の変更内容	
1.B.1.a.i	坑内掘 これまで活動量として精炭生産量を用いていたが、2006年 IPCC ガイドラインは活動量として原炭採掘量を用いることを求めているため、すべての年度について石炭生産量を見直した。	
1.B.2.a.vi 1.B.2.b.vi	石油（その他） 天然ガス（その他） 我が国において廃油井及び廃ガス井からの排出がないことを確認した。	
2.C.1	鉄鋼製造 新たに副生ガスのフレアリングからの CO ₂ 排出量の算定を行った。	
3.B.1 3.B.3 3.B.4	家畜排せつ物の管理-牛 豚/家禽 強制発酵と貯留の CH ₄ 排出係数算出に用いていた Bo と MCF のデフォルト値について、2019 改良ガイドラインの値を適用した。	
3.B.4 3.B.5 3.D.a.2 3.D.b.1	家畜排せつ物の管理-家 禽 家畜排せつ物の管理-間 接排出-大気沈降 農用地の土壌-直接排出 -有機窒素肥料 農用地の土壌-間接排出	家禽類の排せつ物量および排せつ物中窒素量の計算方法を改訂した。
3.B.5 3.D.b.1 4.(IV)	家畜排せつ物の管理-間 接 N ₂ O 排出-大気沈降 農用地の土壌-間接排出 -大気沈降	大気沈降の排出係数を更新した。
3.D.a.5 3.D.b.2 4.(III)	農用地の土壌-直接排出 -無機化された窒素 農用地の土壌-間接排出	農用地土壌における無機化された窒素由来の N ₂ O 排出係数が更新された。
3.D.b.2 4.(IV)	農用地の土壌-間接排出 窒素溶脱・流出	窒素溶脱・流出の排出係数及び溶脱・流出割合を更新した。
4.A.1 4.A.2 4.(III) 4.(IV)	転用のない森林、他の土 地利用から転用された 森林、土壌有機物の損失 に伴う窒素無機化による N ₂ O 排出	新規植林・再植林の面積（AR 面積）の修正に伴い、他の土地 利用から転用された森林における人工林の面積を再計算した。 この面積の再計算に伴い、全年度の生体バイオマス、枯死有機 物、及び鉱質土壌の炭素ストック変化量が再計算された。森林 の土壌有機物の損失に伴う窒素無機化による N ₂ O 排出量も全 年にわたり再計算された。
4.B.1 4.B.2 4.C.1 4.C.2 4.D.2 4.E.1 4.E.2 4.F.2 4.(II) 4.(III) 4.(IV)	転用のない農地・草地・ 開発地、他の土地利用か ら転用された農地・草 地・湿地・開発地・その 他の土地、土壌排水に伴 う CH ₄ 、N ₂ O 排出、土壌 有機物の損失に伴う窒 素無機化による N ₂ O 排 出	森林減少面積（D 面積）の修正に伴い、森林から各土地利用へ の転用面積が全年にわたり再計算された。この転用面積の修正 に伴い、各サブカテゴリーにおいて、生体バイオマス、枯死有 機物、鉱質土壌の炭素ストック変化量及び有機質土壌からの CO ₂ 排出が全年にわたり再計算された。農地、草地における有 機質土壌からの CH ₄ 及び N ₂ O 排出量、土壌有機物の損失に伴 う窒素無機化による N ₂ O 排出量も全年にわたり再計算され た。
4.B.1	転用のない農地	Roth C モデル算定に用いるインプットデータ等の修正により、 単位面積当たりの土壌炭素ストック変化量が再計算された。こ の再計算に伴い、田、普通畑、樹園地における土壌炭素ストック 変化量が 2017~2019 年度で再計算された。

分野・カテゴリ		算定方法の変更内容
4.B.1 4.(V)	転用のない農地	樹園地面積の推計方法を修正したため、2017~2019年度の樹園地の生体バイオマスの炭素ストック変化量および果樹剪定枝の焼却に伴うCH ₄ 、N ₂ O排出量が再計算された。
4.B.1 4.B.2 4.C.1 4.C.2 4.E.2 4.(II) 4.(IV)	転用のない農地・草地、他の土地利用から転用された農地・草地・開発地、土壌排水に伴うCH ₄ 、N ₂ O排出	農用地の有機質土壌面積データが得られる1992、2001、2010年の間の年の面積内挿において、どの土地利用面積変化で有機質土壌が増減したかを推計した結果に不備があったことから、整合性が取れるに様に推計方法を修正した。この再計算に伴い、有機質土壌と鉱質土壌面積を用いた排出量計算に微修正が生じた。
4.E.1	開発地	施設緑地の面積データが1990年から全年にわたって微修正された。これに伴い、当該カテゴリにおける生体バイオマス、枯死有機物、鉱質土壌の炭素ストック変化量が全年にわたり再計算された。
4.G	伐採木材製品(HWP)による炭素蓄積変化量	活動量データ(製材、木質ボード、合板、紙製品)更新のため、インフロー及びアウトフローが2014~2019年度で再計算された。
5.A.1/5.C.1/1.A.4	管理処分場/廃棄物の焼却/廃棄物の焼却等(エネルギー分野での報告)	産業廃棄物の紙くずの炭素含有率及び石油由来割合の改訂に伴い、CO ₂ 排出量(5.C.1/1.A.4)及びCH ₄ 排出量(5.A.1)の再計算を行った。
5.C.1/1.A.4	廃棄物の焼却/廃棄物の焼却等(エネルギー分野での報告)	一般廃棄物の繊維くず中の合成繊維くず割合の改訂に伴い、CO ₂ 排出量の再計算を行った。
5.C.1/1.A	廃棄物の焼却/廃棄物の焼却等(エネルギー分野での報告)	バイオマスプラスチック製品データの改訂に伴い、CO ₂ 排出量の再計算を行った。

10.4.1.1.b. KP-LULUCF インベントリ

表 10-10 算定方法の変更内容

カテゴリー	算定方法の変更内容
新規植林 (A)、再植林 (R)、森林減少 (D)	ARD 面積の修正に伴い、2013～2019 年度の AR、D における全ての炭素プールの炭素ストック変化量が再計算された。また、AR 面積の修正により、AR におけるバイオマスの燃焼からの CH ₄ 及び N ₂ O 排出量が再計算された。D 面積の修正に伴い、D 活動下での有機質土壌排水活動からの CH ₄ 、N ₂ O 排出量が再計算された。さらに、D における有機質土壌面積の修正により、D における土壌有機質の無機化に伴う N ₂ O 排出量が再計算された。
森林経営 (FM)	ARD 面積の修正に伴い、2013～2019 年度の FM における全ての炭素プールの炭素ストック変化量が再計算された。また、AR 面積の修正により FM におけるバイオマスの燃焼に伴う CH ₄ 及び N ₂ O 排出量が再計算された。D における有機質土壌面積の修正により FM における土壌有機物の無機化に伴う N ₂ O の排出量が再計算された。
農地管理 (CM)	D 面積の修正に伴い、2013～2019 年度の CM における全ての炭素プールの炭素ストック変化量が再計算された。Roth C モデルに使われる係数の推計方法の見直しに伴い、2017～2019 年度の CM における鉱質土壌における炭素ストック変化量が再計算された。また、土壌有機物の炭素の消失により無機化された窒素量の算定方法の改訂に伴い、CM における土壌有機物の無機化に伴う N ₂ O の排出量が全年にわたり再計算された。さらに、2017～2019 年度一部の都道府県の樹園地面積の推計方法の修正に伴い、当該年度の CM における生体バイオマスの炭素ストック変化量、及びバイオマスの燃焼に伴う CH ₄ 及び N ₂ O 排出量が再計算された。
牧草地管理 (GM)	D 面積の修正に伴い、2013～2019 年度の GM における全ての炭素プールの炭素ストック変化量が再計算された。Roth C モデルに使われる係数の推計方法の見直しに伴い、2017～2019 年度の GM における鉱質土壌における炭素ストック変化量が再計算された。また、土壌有機物の炭素の消失により無機化された窒素量の算定方法の改訂に伴い、GM における土壌有機物の無機化に伴う N ₂ O の排出量が全年にわたり再計算された。
植生回復 (RV)	ARD 面積の修正に伴い、1990 年度、2013～2019 年度の RV 活動の下での全ての炭素プールの炭素ストック変化量について再計算を行った。

10.4.1.2. 国家インベントリ報告書 (NIR)

前回提出時以降、重要な変更なし。

10.4.1.3. UNFCCC インベントリ審査への対応事項

UNFCCC インベントリ審査の勧告への対応を以下に記述する。詳細は各カテゴリーの当該記述を参照されたい。

なお、温室効果ガス算定方法検討会（「1 章 1.2.1.2.温室効果ガス排出量算定方法検討会」を参照）では、UNFCCC インベントリ年次審査報告書における勧告事項の全てを検討課題の対象とし、優先度を考慮の上、対応への取り組みを進めている。

表 10-11 UNFCCC インベントリ審査への対応状況の概要

分野/カテゴリー	専門家審査チームによる勧告事項	日本の対応	NIR/CRF 該当箇所
LULUCF/転用のない森林 (4.A.1)	無立木地における生体バイオマス炭素蓄積変化を計算するために専門家の判断に基づいて使用されたパラメータに関する情報を NIR に追加すること (2020 年審査報告書 L.12)	無立木地の生体バイオマス炭素蓄積量の算定に使用したパラメータについて使用した値を NIR に記載した。	NIR6 章 (6.5.1.b)1) 表 6-16

分野/カテゴリー	専門家審査チームによる勧告事項	日本の対応	NIR/CRF 該当箇所
LULUCF/転用のない森林 (4.A.1)	日本が NIR で、FM においてみられる変化が CENTURY-jfos モデルでどのように継続的に考慮されているかを説明すること (2020 年審査報告書 L.13)	CENTURY-jfos モデルで仮定している施業シナリオについて記述を NIR に追加した。	NIR6 章 (6.5.1.b)2))
LULUCF/4 (II) 排水、再湛水及び他の有機質土壌/鉱質土壌管理に伴う排出/吸収	現在推定に含まれていない森林有機質土壌から N ₂ O の排出は発生しないという仮定を NIR に含めること、また、現在推定に含まれていない (森林地、農地、草地それぞれの) 有機質土壌から CH ₄ の排出は起らないという仮定を NIR に含めること (2020 年審査報告書 L.18)	NIR に記述した。	NIR6 章 (6.13.a))

10.4.2. 今後の改善計画

以下のような改善を継続的に行い、適宜インベントリの作成プロセスに反映している。詳細については、各カテゴリーの当該記述を参照のこと。

1. 算定方法、活動量、排出係数等の見直し

温室効果ガス排出量算定方法検討会を開催し、現在のインベントリにおいて使用されている算定方法、活動量、排出係数等の改善に関する検討を実施している。検討にあたっては、キーカテゴリーに関する課題、過去の審査において指摘がなされた課題など、重要度の高い課題から優先的に対応している。

2. 透明性の向上

排出・吸収量の算定に関わる方法論、仮定、各種データ等に関する NIR の記載内容について適宜精査を行い、必要な情報を追加していくことで、更なる透明性の向上を図っている。